

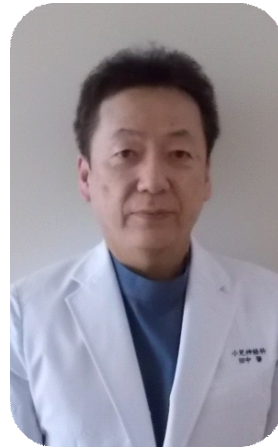


第2号
 令和4年7月7日発行
 北海道立旭川子ども総合療育センター
 〒071-8142 旭川市春光台2条1丁目1-43
 TEL 0166-51-2126
 FAX 0166-51-2127

「前を向き、日なたの道を歩く」

旭川子ども総合療育センター院長

田中 肇



はじめに

青空に日ごと暑さも加わり一年の中で最もさわやかさを感じられる季節となつて参りましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

当センターが昨年一月に新築移転を果たしてから早くも一年半が過ぎました。昨年は移転後の煩雑な期間

がコロナ禍と重なったこともあり、こちらとしても不安の多い一年ではありましたが、皆様方のご理解・ご支援のおかげにてとても順調な経過をたどることができたこと、本当に感謝の念に堪えません。

二年目を迎えますます皆様にご喜んでいただけの施設であり続けられるように、職員一同一層の努力を続けて行きたいと思っております。



心に感染するコロナ

最近私の書く話題はコロナのことは

かりで恐縮なのですが、世の中がコロナ禍に巻き込まれてもう三度目の夏を迎えるというのに残念ながら今なお落ち着きを見せているとは言えません。そして以前より申し上げてきたことですが、このコロナ禍には感染症とは別の恐ろしさがあります。それは全ての人々が先の見通しの立たない、

種々のトラブルが待ち受けます。そこから派生した多くの問題が積み積もれば、社会全体に与える影響は計り知れないものになるでしょう。極論を言えば、今世の中で起こっている争い事の多くはコロナ禍じゃなかったら起こらなかったことなのではないかとさえ思ってしまうのです。

未来の見えない中であらゆることの我慢を強いられ精神的に大きく疲弊していることです。まさにコロナは人々の心に感染するとも言えそうです。もちろんコロナにて生死の問題に直面している人や経済的に生活そのものが圧迫されている人がおられるわけですから、それに比べればと言われる方もいるかもしれません。しかしだから

皆さんは「カルネアデスの板」をご存知でしょうか？海で二人の人間が一枚の板にしがみつき、一人しか助からないかもしれない状況。私の好きな某探偵漫画でこれを題材としたシーンがありました。主人公の彼女がこの状況について「私達の場合はどうなるだろう？」という世にも恐ろしい質問を主人公にします。

と言って子ども達の一生の想い出となるべき行事が中止になっても、家族一緒に大切な時間を過ごすはずだった予定がなくなっても、そんなものは大きな問題ではないと言えるものでしょうか。人々の心が折れてしまった先には職場や家庭内の人間関係における

そしてその後の主人公の印象深い言葉がこうです。「俺だったら考えるだろうな」「考えるって何を？」「二人とも助かる方法をさ」。感染への対応と人々の心。もうどちらかを選択する所で思考を止めるわけにはいきません。「カルネアデスの板」にしがみついている

る我々ははたしてこの主人公と同じことが言えるのか、世の中全体が何かを試されているように感じてなりません。



閑古錐

柘野俊明さんという住職の方が書かれた本の中で「閑古錐」という言葉について書かれておりました。今は情報が溢れる時代であり、その情報を収集・発信するツールも幾多の物が氾濫しております。若い世代の方はそれらを即座に利用して高い適応性を発揮しますが、高齢になるほどとてもついていけない気持ちになり使用を諦めてしまいがちです。

日常生活で使う分には別になくても良いで済む話も、こと仕事に必要となれば話は別です。世にパソコンが現れ仕事で用いることが当たり前になって

きた頃は、とても無理だとドロップアウトしてしまった高齢職員も多かったと聞きます。メディアツールに限らず、多くの分野で技術の急速な進歩はついていけない者を置き去りにしてしまいかねないのです。では時代に取残された者はもう居場所を失ってしまうのでしょうか。

閑古錐というのは禅語で、古びて先が丸くなりあまり使われなくなった錐(きり)のことだそうです。

柘野さんはこれについてこう説明しています。新しい錐は簡単に穴を開けることができるが鋭すぎて人を傷つけることもある。古い錐は穴を開けるには使い勝手が悪いかもしれないが人を傷つけることはないし、何とも言えない趣がある。すなわち年をとっても長年培ってきた経験により、若者が困っている時にはそれを話して安心感を与えることができる、それが閑古錐の存在価値だということです。上に立つ者として権威のみを振りかざすのではなく、決して卑屈になることもな

く、若い人に任せるべきは任せながらもその成長を穏やかに見守ることこそが年配者として示すべき円熟味なのだ、そう気持ちを前向きにしてくれたこの言葉を、私はこれからも大切に心に残したいと思っています。

おわりに

春まで放送されていた朝ドラ「カムカムエヴリバディ」、御覧になった方も多かったと思います。三世代の母娘を描いたお話でしたが、全世代を通して大切な思いを繋いだのがルイ・アームストロングの「日なたの道」という名曲でした。



好きな国へ自由に行き、好きな国の曲を自由に聴ける、そんな明るい日なたの道を子ども達には歩いて欲しいという素敵な願いがこの物語のモチーフでした。

今我々は大変な日々を過ごしていますが、でもこのドラマのヒロイン達はずっと過酷な時代を懸命に生き、明るく笑顔で思いやりの気持ちを忘れず生きるこの大切さを教えてくれました。コロナとの戦いはこれからも続くことでしょう。でも下を向き、後ろを向き、物事の悪い面ばかりを見ていては日のあたる場所など決して見つかりません。子ども達の歩むべき「日なたの道」は我々大人達が常に前を向き、笑顔で照らしてあげるその先に開けていくのです。感染が落ち着くだけではなく、いつも希望に満ちていたコロナ前の日常と心を取り戻すことで初めて、「心に感染したコロナ」が排除できたと言えるのではないのでしょうか。

新任職員紹介

令和四年度四月に着任した
職員からのご挨拶です。

*コロナ対策で職員は終日マスクを着用しております。写真撮影の時だけ外しております。ご理解をお願いいたします。

庶務課職員挨拶

主査(医事) 小林 あや



本年四月に道庁保健福祉部総務課から異動してきました小林と申します。

今年で道職員生活十九年目となり、これまで、高齢者や障がい者、子どもが入所する施設への監査や当センターが行っている道立施設専門支援事業の内容確認など、指定基準や運営

に対して指導する側の仕事に多く従事してきましたが、このたび、実際に療育を行っている当センターで働くこととなり、緊張しながらもワクワクしています。

道庁では、障がい者保健福祉課にも所属しており、障がいへの理解促進のため、フォーラムを開催し、発達障がいのある方や家族の方に、普段の想いを大勢の前で発表していただいたり、障がいのある子どもたちの作品や車椅子ファッションショーの衣装の展示、盲導犬と触れあえるイベントなどを企画していました。子どもたちの作品は、素直な心で自由に表現している素晴らしい作品ばかりで、いつも感動しながら準備させていただいていたのを覚えています。

当センターでは、入院や外来に係る請求事務や、電子カルテなどのシステム運用の仕事を担当しており、普段、正面玄関から入って受付横にある事務室で仕事をしているため、お目にかかる機会は少ないと思いますが、皆様にも顔や名前を覚えていただけたら大変嬉しいです。

私は直接子ども達の療育を行うことはできませんが、これまで見てきた様々な施設の良いところや、障がいの

ある方に教えていただいたお話を思い出しながら、当センターの運営に取り入れ、皆様に寄り添ったサービスを提供したいと思っております。

未だ新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず不安な生活を送られている方も多くいらっしゃると思います。こうした中、私たち職員には何ができるかを考え、子どもたちやご家族の方々にとって、安心して過ごすことができる生活の場、通いの場となりますよう、日々努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



生活棟職員挨拶

看護師 菊田 絵利子



生活棟看護師の菊田絵利子と申します。二月から臨時職員として入職しましたが、五月一日より正規職員となりました。

看護師になって以来、小児科、産科病棟で働き、常に子どもの声が聞こえるなかで生活をしていました。昨年長く勤めていたクリニックが閉院し、「もう子どもたちに接することがないのかなあ」と寂しさを感じていた頃、旭川子ども総合療育センターの求人に出会いました。子どもに関わる仕事に就くことができ、本当に嬉しく思っています。

実は看護学生時代、月に一、二回ボランティアとしてセンターを訪れ、子どもたちと交流していました。養護学校の運動会に参加したり、夏には春光台公園でキャンプもしました。その後も友人の子どもがセンターにお世話になっていたり、もあり、旧センターにも時々邪魔していましたので、懐かしい場所でもありました。

仕事としての療育の現場は初めてで慣れないことも多く、皆様にはご迷惑をおかけしていると思えます。一日でも早く子どもたちや保護者の方々、スタッフの皆様の信頼

を得られるよう努力してまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

リハビリテーション課職員挨拶

言語聴覚士 手塚 里帆



四月より旭川子ども総合療育センターで勤務することになりました。言語聴覚士の手塚里帆です。

社会人一年目ということもあり、まだまだ不慣れな点も多いですが、子どもたちの笑顔に日々癒やしをもらいつつ、周りのスタッフの方々の背中を見ながら学びを深めています。グループホームでアルバイトをしていた経験もあり、そこで学び、培ったことをリハビリの場でも活かすことができればと思っております。

ご家族の皆様の気持ちに寄り添い

ながら、お子さんと一人ひとりに最適な支援を提供していくことはもちろんですが、お子さんの笑顔を引き出しつつ、「楽しい」と思ってもらえるようになりハビリを実施できるような言語聴覚士になれるよう、これからも精進していききたいと思えます。



地域連携課職員挨拶

保育士 塩原 夏実



昨年十月より地域連携課生活支援係の保育士として勤務することになりました、塩原夏実です。以前は認定こども園の保育教諭として勤務し、児童デイサービスでの勤務を経て、こちらに参りました。旭川に

住むのは初めてですが、自然がたくさんありとても良いところだと思えます。

私はピアノを弾いたり、歌を歌ったりするなど、音楽に関連したことが好きです。時々ウクレレも弾いています。現在リトミックを勉強中です。療育センターでは、保育の活動で子どもたちと一緒に過ごすことが多くあるので、それらを生かしながら今後子どもたちと積極的に関わっていききたいと思えます。

至らない点多々あるかと思いますが、子どもたちと一緒に私自身も成長していったらと思います。子どもの気持ちに寄り添い、安心して楽しく生活ができるように、精一杯頑張りたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

シン連載エッセイ

よつばの庭

宇佐見 早知



「靴の想い出」

「宇佐見さん、アサッコで文章書いてみない？」

ある日、小野リハビリテーション課長と佐藤地域連携課長に言われました。えー、どうしようかな…不安もあるけど楽しそう、そこで好奇心旺盛な私、「はい、やります！」ということで、今ここで文章を書くに至っています。

原稿を書いているこの時期はまだ新人さんも入っていたばかりで初々しい空気が職場にも流れています。私事ですが、今年就学した子どもの入学式に参加しました。初めての上靴、何にしようか迷い、真っ白の靴にしました。入学式当日、周りの子どもの靴を見ると、ピンクや紫、黄色や緑、本当に色とりどり、動き回るお花畑のようでした。今はランドセルから靴まで様々な種類があり、自分の好みの物を選べるステキな時代になりました。

靴のことを考えると、一人の女の子を思い出します。私が理学療法士になってすぐ担当した、小学校高学年の脳性麻痺の女の子です。その子は支柱付きの靴(装具)を持って

いきましたが、重くて歩きにくいと言
履いていませんでした。そこで私
は、装具を履いた時と普通の靴での
歩行をビデオに撮って比べました。
すると明らかに装具を履いた方が、
つま先が内側を向いて、体も傾いて
歩いていたのです。その装具は片方
で一・五kgぐらいあり、今でいう軽
くて歩きやすい靴とはかけ離れ、重
くて歩きにくい靴、だったのです。
その子の姿勢や変形も考えると装
具を使用した方がいいだろうなとい
う気持ちと、重くて歩きにくいから
履きたくない、というその子の気持
ちも分かるし、当時は大きく悩んだ
ものです。今はどんな靴を履いてい
るのかな？歩きやすい靴を履いてい
るのかな？

さて、靴の話をもう一つ。先日息
子の靴先に穴を見つけました。
えー！？穴？何で靴先に穴があく
の？その疑問もすぐに解きました。
その頃、毎日のようにストライダー
に乗って遊んでいました。かなりの
スピードを出し、靴でブレーキをか
けていたのです。それはこうなる
よ、と妙に納得したのでした。その

穴を開いた靴を見た時、こんなこと
を思い出しました。「この子は普通
の市販の靴を履いたら三日で穴が
あくんです」と言っていたお母さん
がいたことを。当時の私は、三日歩
いて靴に穴があくなんてちょっと大
げさじゃないのかな、と思ったりも
しました。しかし、地面に強くこす
ればどんな靴でも削れる！穴があ
く！身を持って勉強しました。
みなさんは今どんな靴を履いてい
ますか？自分に合った靴を履いてい
ますか？もしかすると大きすぎや、
幅、高さに合っていない靴を履いて
いる人も多いかもしれません。自分
の足を見直して、自分の足に合った
素敵な靴を探してみてくださいね。

筆者紹介
当センターのPT、子育て
もバリバリ真っ最中。
☆好きな食べ物
あまいもの。スープカレー
☆マイブーム
北海道弁でそれらしい言葉
を見つけると嬉しくなり、
人に使う。
☆コロナ禍でいけていません
が、食べ歩き好きです。

新センターの外構工事について

旧センターの解体工事は現在進
行中で皆様にはご不便ご迷惑をお
かけしております。
長年慣れ親しんできた旧センタ
ー庁舎はすっかりと取り壊され、
現在は整地作業が行われておりま
す。このあと、外構工事が行わ
れ、広々とした駐車場に生まれ変
わります。一部には車椅子でも走
行可能な園地も造られる予定で
す。工事期間は十二月中旬までと
なっています。今しばらく皆様
にご不便をおかけしますが、ご理
解ご協力のほど、よろしくお願
いいたします。

【完成予定図】



令和四年度行事予定

〈令和四年〉

- 七月二十七日 親子まつり
療育相談
終業式
- 十月 十二日 お楽しみ会
- 十二月二十一日 クリスマス会
- 十二月二十三日 療育相談
終業式

〈令和五年〉

- 二月 一日 豆まき
- 三月 一日 ひな祭り
- 三月 八日 誕生送別会
- 三月 十日 卒業式
退院式

愛児の会だより

令和三年度活動報告

令和三年

- ◇四月◇ 定期総会 中止
- イオンの『幸せの黄色いレシ
ートキャンペーン』登録。
- ◇五月◇ 賛助会員募集（九十六名）
- ◇六、七月◇ 花壇の種・苗植え（ひまわり
他）
- ◇七月◇ おやこまつり

(助成) 保護者不参加

◇九月◇
第一回理事会中止

◇十月◇
花壇の花を片付け、チューリップの球根を植える。

◇十二月◇
会員の子ども達にクリスマスプレゼントの補助。

令和四年

◇一月◇

第十七回雪像作り(曹友会に依頼)すみっこぐらし、マリオ、アンパンマン、小だるま八体旭川市へ再生資源回収奨励金交付申請

◇二月◇

やまぶき会と合同でセンターとの対話集会は中止し、書面による質疑応答を実施

◇三月◇

第二回理事会中止
会報「夢」発行
退院生に記念品贈呈(高等部卒業生)

◇一月から十二月まで◇

○再生資源回収(古新聞・古雑誌・古着・アルミ缶・スチール缶・段ボール等)

○ベルマーク回収(ベルマーク・テトラパック・使用済みインクカートリッジ)

△理髪料金受け払い業務

会員一回につき三百円の補助あり。

△公衆電話管理業務
△自動販売機管理業務

◎今年度も愛児の会は神田飛鳥会長です。また、正会員、賛助会員募集中です。ご協力をよろしくお願いたします

職員の動向

令和三年六月一日から

令和四年五月一日まで

《退職》

令和四年一月三十一日付

指導主任看護師 神原 美樹子

《転出》

令和四年四月一日付

庶務課主査 橋本 真希
(旭川児童相談所地域支援課 相談支援係長へ)

《新規採用》

令和三年十月一日付

保育士 塩原 夏実

令和四年四月十日付

言語聴覚士 手塚 里帆

令和四年五月一日付

指導主任看護師 菊田 絵利子

《転入》

令和四年四月一日付

庶務課主査 小林 あや

(保健福祉部総務課主任から)

編集後記

令和三年一月十九日に新築移転し、「北海道立旭川子ども総合療育センター」となって早二年目となりました。

新センター移転に伴い、広報誌「旭肢だより」も「アサッコ」に名称変更して、第二号の発刊となります。

真面目な広報誌の記事だけでなく、ほっこりする文面も加えたいと思います、昔「旭肢だより」も短期間ながら、現田中院長や小野リハビリテーション課長のコラム・エッセイ欄がありました。そのようなコーナーを復活させたいの思いから今回宇佐見PTにエッセイを依頼しました。題名は

編集者も考えましたが、今一で、筆者自身の候補「よつばの庭」の説明文が『庭でよつばを見つけました。すると出てくる出てくる、よつばたちが、しあわせって見つけにくいようによく見ると近くにあったりするかもしれない』で決まりました。



このキャラクターは地域連携課の高貝保育士が作成したアサッコと言います。以後、お見知りお

きを。

ここでクイズです。

「アサッコ」第二号の紙面にアサッコは何人いたでしょう。

正解がわかった方は、地域連携課長に耳打ちしてください。

アサッコシールを一枚プレゼントします。

親しみのある誌面を目指しています。今後ともよろしく願っています。

(地域連携課担当)